

## 「楽翁画帖」について

|       |                                                                                                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2016-06-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 高松, 良幸<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.14945/00009450">https://doi.org/10.14945/00009450</a>                  |

# 「楽翁画帖」について

About “Rakuou-Gajou(Rakuou's Album)”

高松良幸

Yoshiyuki TAKAMATSU

静岡大学学術院情報学領域

論文概要：平野美術館が所蔵する「楽翁画帖」は、寛政一二年から享和元年頃にかけて、全国の様々な流派の画家が描いた一九四図の絵画作品を集成したものである。その蒐集を行ったのは寛政の改革の主導者であった松平定信であったと推測される。  
本稿は、「楽翁画帖」の成立の経緯、意図を検証するとともに、松平定信の文化活動について考察する。

**Summary:** “Rakuou-Gajou(Rakuou's Album)” means a collection album of 194 painting works which were painted by painters of various schools all over Japan in 1800 and 1801. It is thought that these painting works were collected by Matsudaira Sadanobu who was known as a leader of “Kansei Reform”. This paper examines how and why “Rakuou-Gajou” was made, and concerns cultural activities of Matsudaira Sadanobu.

## はじめに

浜松市の公益財団法人平野美術館には、「楽翁画帖」と題される江戸時代後期の全国各地の画人が描いた一九四図の色紙を集成した作品が収蔵されている(末尾「『楽翁画帖』の内容」参照)。名称にある「楽翁」は、老中として寛政の改革を主導したことで知られる松平定信の号である。すなわち本作品は、松平定信が蒐集した全国各地の画人の作品を集成したものと推測されているものである。

「楽翁画帖」所収作品については、所蔵先の平野美術館はもちろん、他の美術館・博物館等の展覧会等においても展示される機会が増えるなど、近年その存在が知られるようになった<sup>①</sup>。ただ、作品の全容や成立の経緯、制作の意図などについては、これまで紹介されることがほとんどなかった。本稿はこの「楽翁画帖」の概要について紹介するとともに、その成立の経緯や制作意図について検証するものである。

## 一 「楽翁画帖」の概要

本作品に収録される各図は、概ね二五センチ前後×三三センチ前後の統本の画面に描かれている。大半は画面を横長に使用しているが、一一図は画面を縦長に使用している。現在は、各図とも捲りの状態で保存されているが、近年までは六巻からなる卷子本の旧装丁に貼り付けられていた。<sup>2)</sup>ただ、この旧装丁も、統本の画面を貼り付ける台紙の紙質や表紙、見返し<sup>3)</sup>が新しいことから、各図の蒐集当初のものとは考え難い。大きさがほぼ統一された統本の画面を使用していることから、当初は帖装であったと思われる。

巻一の四九図はすべて江戸在住の画人、巻二の三六図は京・大坂を中心とした西日本の画人、巻三の三三図も京・大坂を中心とした西日本の画人、巻四の二六図は東北・越後等の画人、巻五の三三図は京・山陽道・四国等の画人の作品をそれぞれ収録する。巻六の一七図は江戸・京・大坂他各地の画人の作品を収録し、巻五までの補遺的な性格のものと思われる。なおこの一九四図は、基本的には一画人一図ずつで構成されているが、竹沢養溪、長山孔寅、五十嵐主善、賀茂専顕は二図ずつを描いている。<sup>3)</sup>各図の中には、江戸幕府奥絵師であった狩野養川院、伊川院父子、各藩のお抱え絵師、酒井抱一、呉春、蠣崎波響、木村兼葭堂、岡田米山人・半江父子などの著名画人、牧野忠精、大久保忠真などの大名・旗本、藤波寛忠、伏原宣光ら京の公家・地下人などのほか、閨歴が判明しない画人の作品も多数含まれている。全国各地の有名・無名画人一九〇名の作品を、身分、階層、専門性などの隔てなく収録したものであると思われる。

一九四図のうち落款に年記があるものが二三図あるが、そのうち寛政一二年のものが二一図、翌寛政一三年（享和元年）のものが二図である。また款記に年齢を記すものが三図あるが、このうちの狩野祐清邦信「紅梅図」には、「祐清十四歳筆」とあり、天明七年に生まれた祐清の一四歳は

寛政一二年に当たる。制作年代のある各図からの考察ではあるが、本作品に収録されている各図の大半は、寛政一二年から翌年にかけて制作、蒐集されたものであると判断される。

さてこの旧装丁には、大半の各図の傍らに、その筆者の居住地または身分ならびに人名等に関する注記がある。これらを概観すると、諸大名などに仕える絵師などは「薩州家臣古藤養山」、「毛利家臣笹山養意」など、出仕先に「家臣」と記して姓名を記すのに対し、寛政一二年頃白河藩に仕えていた絵師などは、「家臣竹澤養溪」、「家臣大野文泉」、「家臣星野曹吾」などと、出仕先を記さず単に「家臣」の後に姓名を記すだけである。このことは、この注記を行った者が白河藩に属するものであることを示すものといえよう。すなわち、本作品は白河藩もしくはその関係者によって制作されたものと推測される。

しかも身分、階層、有名、無名を問わず全国各地の画人の作品を蒐集することは、当時の白河藩主松平定信の意向の下でなければ行い得なかったものと想像される。現所蔵者の平野美術館が本作品に定信の号「楽翁」を冠する所以である。<sup>4)</sup>なお先述のとおり、旧装丁は当初のものとは考えづらいものの、この注記は当初の装丁に付されていたものを転写したものと思われる。注記は無名の画人についても具体的に記されており、改装の際に改めてこれらの画人について調べて記入したものと想像し難いためである。

## 二 成立の経緯

本作品には、題字や序文、跋などはなく、松平定信ならびに当時の白河藩（文政六年、転封して桑名藩）関係の各種資料にも本作品の成立や伝来に関連するものは見出すことができない。従って、本作品がまさしく定信の意向、あるいは定信のために制作されたものであるかという問題につい

ては、確実な証拠があるとはいえないのが現状である。もちろん、作品成立の経緯や制作の動機等に関しても明確ではない。

ただこの問題に関しては、やはり作品中から示唆に富む事実を発見することができる。それは、本作品に含まれる蠣崎波響筆「水芭蕉図」(図1)の以下の款記(図2)である。

庚申後四月十二日製於

浪泊之兼葭堂中 忝前波響

すなわち波響は、寛政一二年閏四月一二日、「浪泊」(浪華)の木村兼葭堂邸でこの作品を描いたと伝えている。木村兼葭堂の『兼葭堂日記』によると、同日波響は確かに兼葭堂邸を訪問しており、本図はこの日に兼葭堂邸で描かれたものと確認できる。

ところで『兼葭堂日記』の同日の記事には、松平定信の『集古十種』編纂作業の中で、全国各地に点在するさまざまな文化財の調査や模写などに尽力した白河の画僧白雲と白河藩の画員大野文泉(のち巨野泉祐)の名も見ることができるのである。「楽翁画帖」が松平定信の下命で制作されたものであるとすると、同図は、白雲・文泉の依頼のもと、兼葭堂のとりなしにより、同邸において波響が揮毫したものと推定される。

周知のとおり『集古十種』は、松平定信が編纂させた日本の古文化財に関する大図録である。定信はその編纂のため、谷文晁、白雲、大野文泉ら配下の画人を全国各地に派遣し、各所の古文化財の精密な模写を行わせた。寛政一一年と一二年、白雲と大野文泉は、『集古十種』に収録すべき古文化財の調査、模写のため、西日本各地を旅した。その行程については、川延安直氏、佐川庄司氏らによって明らかにされている<sup>6)</sup>。

寛政一一年は三月一四日頃江戸を出立。東海道を経て四月一八日に大坂

の木村兼葭堂邸に到着。翌日から大峰山、高野山など紀州方面の古文化財調査を行い、六月一日から一三日まで兼葭堂邸に滞在後、畿内の調査を実施。八月中旬より山陽道を西に向かい、現在の神戸付近を経て下旬には瀬戸内海を渡り讃岐へ。八月二四日に象頭山を発し、高松、屋島、丸亀などを経たあと再び瀬戸内海を渡り、九月五日には備前下津井へ。その後岡山を経て伯耆に向かい、一〇日には大山山麓、その後米子を経て一七日には備後帝釈峡に。一〇月に岡山を経て二〇日に大坂の兼葭堂邸に到着。一月初頭に大坂を立ち江戸に戻った。一二月七日には、この二人の西遊の成果に関する展覧が開かれた。

翌一二年は四月に江戸を出立し、中山道を経て閏四月八日に大坂の兼葭堂邸に到着。同邸に一二日まで滞在の後、山陽道へ。一九日には備後神辺の儒学者菅茶山邸に到着し、一泊の後、安芸宮島の厳島神社、尾道浄土寺、音戸瀬戸などを巡った。その後周防まで足を伸ばした後、五月一日日には神辺の茶山邸に戻り、同所を拠点に吉備津神社などの宝物を調査。二〇日に茶山の許を旅立ち六月一日には大坂の兼葭堂邸に到着。以後一〇月までの間、山城、河内、紀伊などの各所の宝物の調査を実施。一〇月一八日から二〇日まで兼葭堂邸に宿泊の後、江戸に出立した。一月には江戸に到着し調査の成果物を藩邸に提出。一二月には白河に帰着している。

蠣崎波響の「水芭蕉図」は、このうちの寛政一二年の旅程の中で制作され、二人の手に渡ったものと推定されるが、「楽翁画帖」に含まれる京・大坂、西国の画人の作品には、他にもこの旅程の中で二人が入手したと推測されるものがある。例えば鉏雲泉「山水図」には「庚申夷則」と寛政一二年七月の年記があるが、『兼葭堂日記』では同七月二日に雲泉、白雲、文泉は兼葭堂邸を訪ねており、その前後もこの三者は兼葭堂邸においてしばしば顔を合わせていたと思われる。また、「庚申小春」と同年一〇月の年記がある森川竹窓「墨竹図」(図3)、淵上旭江「白梅に小禽図」(図4)につ

いては、同月一日には竹窓と白雲、文泉の三者、一四日には旭江と白雲がいずれも兼葭堂邸で席を同じくしていた。<sup>7)</sup>他に同年一〇月の年記がある岡田米山人「瀑布図」(図5)、森春溪「蘭に靈芝図」(図6)なども、この時期に制作されたものであり、同時期これらの画人は、兼葭堂の許をしばしば訪ねている。<sup>8)</sup>「庚申冬日」の年記がある木村兼葭堂「蘭に靈芝図」(図7)も、この時期に描かれたものであろう。

一方山陽道の画人の作品についても、同年閏四月から五月にかけての白雲、文泉の調査旅行の際に蒐集されたものが多数含まれていると想定される。古川古松軒「鳴門図」(図8)は「七十五翁」の行年書があり寛政一二年の作と判断できるが、当時古松軒は備後岡田に隠棲していた。また「楽翁画帖」には、平田玉蘊「草虫図」(図9)、平田鉦「牡丹図」、龜山元助「蝶唐子図」、龜山万「夏草図」(図10)など、尾道の画人の作品も所収されているが、彼らはいずれも当人もしくは親が菅茶山門下の人物である。龜山万「夏草図」には「十一歳」という行年書があり、また寛政一二年時点で平田玉蘊は一四歳といずれも若年であることから、彼女たちが尾道を離れてこれらの作品を描いたとも考え難い。とすれば、旅行の途次菅茶山邸に立ち寄った白雲、文泉が、茶山の仲介を得てこれらの作品の制作を依頼し入手したと想定できるのではあるまいか。

一方讃岐の画人長町竹石の「山水図」(図11)には「庚申夏五」の年記があり、寛政一二年五月の制作であることは明らかであるが、白雲、文泉が同月讃岐に渡って、その制作を依頼したか否かは判然としない。しかし、前年にこの両人は讃岐各所の文化財調査を実施しており、讃岐方面の文人とは既知の関係にあったと思われる、また備前・備中と讃岐間の船便も豊富に存在したことから、船便を使った書状等による制作依頼を行った可能性もある。さらに白雲、文泉は、六月から一〇月にかけて京など畿内の古文化財調査に従事していたと考えられているが、大坂や山陽道における上記

想定「楽翁画帖」関係の作品蒐集にも従事していたとすれば、この間京などの画人にも、「楽翁画帖」のための作品制作依頼、蒐集に当たっていたのではなからうか。

ところで、「楽翁画帖」の中には、白雲、文泉の西遊の間に、全く異なる場所で制作された作品もいくつか含まれる。「蒼龍山人」の款があり仙台藩士「吉成愛治」の注記がある「桃花山水図」は「庚申中秋」すなわち同年八月、「源忠卿」の款があり、仙台藩士「松坂亘」の注記がある「牛曳図」は「庚申晩秋」すなわち九月の年記があり、また新潟の画人五十嵐主善の「蓮に鶴鶴図」には「庚申之冬日」と同年冬制作との年記がある。また江戸の画人鈴木雲潭の「奇石図」には「辛酉初春」すなわち寛政一三年正月、大西圭斎の「海棠に雀図」(図12)には「辛酉春」すなわち同年春と、二人がすでに白河に帰藩後に制作された作品も含まれている。これらのことから、「楽翁画帖」所収の作品蒐集には、白雲、文泉だけではなく、他の松平定信配下の人物も関わったものと想定される。

この作品蒐集活動が組織的に進められたと考えられる理由のもう一つは、各作品の画面として使用される統である。実は「楽翁画帖」の各図に使用されている統には二種類のものが存在する(末尾「楽翁画帖」の内容)の統の項においてA・Bで種類の相違を示した)。このうちAは繊維が薄手で光沢が鈍いのに対し、Bは繊維が厚手で光沢があるものである。そしてAタイプの画面に描かれる作品は、江戸、東北、越後など東日本地域で活躍した画人の作品が中心であるのに対し、Bタイプの画面に描かれる作品は、京、大坂、山陽道などの西日本で活躍した画人の作品が大半を占める。これはすなわち、東日本方面、西日本方面でそれぞれ異なる統を調達し、それぞれの統を持参して作品の蒐集に当たる複数のチームが存在したと考えるのが自然であろう。そのうちの西日本方面の一チームの構成員が白雲、文泉であったということになる。

「楽翁画帖」所収の作品蒐集は、『集古十種』などの編纂作業と同様、松平定信の指揮の下で、組織的かつ体系的に進められたものであると判断される。

### 三 制作の意図

それでは「楽翁画帖」の制作を企てた定信の意図は、どこにあったのであろうか。

先述のとおり、この作品は全国各地の有名・無名画人一九〇名の作品を、身分、階層、専門性などの隔てなく蒐集したものであり、当時の全国の画人総覧的な性格を有するものである。全国の古文化財総覧的な性格を有する『集古十種』の刊行は寛政一二年に始まり、翌一三年には將軍徳川家斉にこれを献上するという時期に、並行して「楽翁画帖」の制作作業を進めていたということであれば、古文化財総覧としての『集古十種』編纂に対して、当世の画人総覧としての「楽翁画帖」作製という企図のもと進められたと考えるのが妥当であろう。過去の文化事象に関わる証拠としての古文化財に関わる画像情報のデータベース化の成果が、『集古十種』ならびにそれと並行して編纂が進められた『古画類聚』（東京国立博物館）<sup>10</sup>であるとすれば、「楽翁画帖」は当代の画人のデータベースとしての意義を有するものと解される。それは、定信が古文化財だけではなく、同時代の様々な事象に関する情報にも関心を寄せ、それを積極的に蒐集することへの執着を有していた人物であることを物語るものである。

谷文晁や白雲、大野文泉など松平定信配下の画人は、『集古十種』編纂のための古文化財に関する画像情報蒐集のため全国を旅したが、その際行ったもう一つの画像情報蒐集活動は、旅先の全国各地の写実的な景観図の制作である。定信が配下の画人に旅先の風景を写実的に描かせた例としてよく知られているのは、寛政五年、定信が幕命により相模湾沿岸の海防

のための巡見旅行に出かけた際、随行した谷文晁に相模・伊豆各所の景観を描かせた「公余探勝図巻」（東京国立博物館）であるが、文晁や白雲、文泉らは、その前後から定信の藩領内外の巡見の旅などに随行した際、旅先の風景を描いている。そして、『集古十種』編纂のための調査に配下の画人たちを各地に派遣するようになると、これらの画人たちは、古文化財の模写とともに、各地の風景に関する膨大な写実的景観図の制作を行っていたことが確認されている。これらの活動は、定信による全国各地の地理情報に関する画像データベース化作業と称することができるであろう。

また、谷文晁が編纂し定信が愛蔵したと伝えられる「近世名家肖像」（東京国立博物館）は、同時代の全国各地の学者、文人、画人、好事家など四六名の文化人の肖像を収録した作品である。文晁自身の筆でない可能性が高い作品であるが、文晁が『集古十種』のための画像情報蒐集の旅の中で出会った各地の文人の肖像の画稿をもとに描かれたと思われる肖像が、多数含まれていることが指摘されている。<sup>11</sup> 定信が「楽翁画帖」制作によって全国の同時代の画人たちの作品のデータベース化を図ったとするならば、この「近世名家肖像」は、全国の同時代の文人の人物像そのものについてデータベース化を図ったものであるといえる。

以上のような古文化財、景観、同時代絵画、文人の肖像等に関する画像情報の蒐集とそのデータベース化への広汎な取り組みは、定信が知識に対する飽くなき探求心を有していたことの証左といえる。定信は絵画について、「蛮画などは写真鏡にうつしてそのまゝを画ければこそ、横文字しらするものも、その画によりてその製度を察すべけれ」、あるいは「ことはを尽くしていひ、筆をふるひてかいたるとて、みざるもの、みるやうにあらん事はかたかるへし」（いずれも『退閑雜記』）と述べ、写実的な絵画が言語や文章だけでは伝え得ない情報を伝える上で大きな効用があると主張している。

このような定信の知への探求は、文化領域を中心としたものであり、江戸時代後期を代表する大名文化人としての定信の活動の一環と評することもできよう。しかし同時に、定信は老中首座として寛政の改革を主導し、寛政五年にその地位を解かれた後も、幕政に様々な意見を建言できる位置にあり、また白河藩主として藩政を主導する政治家であった。一見文化領域に関わるような情報の蒐集、整理を、定信の文化的趣味の領域だけで捉えることは相応しいであろうか。今日では文化的領域の中に含まれるような事象でも、当時の幕政、藩政に関わることが存在したのではなからうか。

天明の大火による京都御所の焼失後、復古的な御所再建を求める光格天皇を中心とした宮廷と、幕府の財政難や諸国の天災、飢饉等の中、巨額の費用を要する復古的御所再建に反対する定信ら幕閣の対立という経験を経て、宮廷の有職故実に関する知識の蓄積が必要であると感じたことが、『集古十種』や『古画類聚』編纂の動機となったことは容易に推測できる。また、定信が制作させた写実的景観図の代表作である「公余探勝図巻」が、日本近海への異国船の出没に対応する海防のための巡見の際に描かれたものであることを考えると、各地の正確な地理的情報の把握が海防政策等の立案の要点という思いもあったであろう。さらに諸国の優れた人材の発掘やそれらの人物との交流活動を通じての知識、情報の蓄積という意図が、「楽翁画帖」や「近世名家肖像」の制作にあったのではなからうか。

なお定信は、これらの画像情報の蒐集のために、配下の画人を自らの領外の幕府直轄地や諸藩領に派遣した。かかる活動は、単に全国各地の古文化財や景観、各地の同時代画人の絵画作品、著名な文人の肖像などという画像情報だけではなく、これら定信配下の画人たちが実際に見聞した幕領、諸藩領の政治の実情、面会した人物の実態などという副産物的な情報を定信に齎した筈である。それらの情報も、定信にとって文化面のみならず政治面において有益な知識となったのではなからうか。<sup>12)</sup>

## 結び

最後に、「楽翁画帖」研究に関する今後の課題について述べておきたい。まず現在平野美術館に所蔵される「楽翁画帖」が、作品成立時に蒐集された全作品であるかという問題である。平野美術館の「楽翁画帖」は全一九四図と、現存する江戸時代後期の寄合書画帖の中では極めて膨大な作品収録数を誇る。しかし松平定信がこのような画帖を企画した場合、当然含まれているべき複数の自らの配下の画人の作品が含まれていない。具体名をあげると、谷文晁、谷文一、亜欧堂田善、蒲生羅漢、安田田驥、岡本茲桟等の作品が収録されていないのである。<sup>13)</sup>

また、当時活躍していた各地の画人の中で、作品が収録されていない画人も多い。先述のとおり「楽翁画帖」の制作に関して、木村兼葭堂が大坂や自らの周辺の画人などの作品の蒐集に仲介の役割を果たしていたと思われるが、兼葭堂との交流が深い大坂の画人の中に「楽翁画帖」に作品が収録されていない者も多い。森狙仙、森周峯、福原五岳、浜田杏堂などの画人である。その他の地方でも、当時活躍が知られる画人であるにもかかわらず、「楽翁画帖」に作品が含まれていないものは数多い。

このような現存の状況を考慮すると、作品の伝来の過程において、当初含まれていた作品の中で、装丁の改装などの際に流出した作品が存在する可能性は否定できない。もしそうであるならば、そのような作品の出現に期待したい。

また、当時の寄合書画帖の多くが書と画を組み合わせて装丁した書画帖の体裁をとることが多いのに対し、「楽翁画帖」が絵画作品のみを収録したものであることも注目される。全国各地の有名無名の画人の作品の総覧的な蒐集を意図したのであれば、全国各地の文人の書の総覧を企画したとしても不思議ではないと想像されるが、そのような作品がこれまでに発見されたということは寡聞にして知らない。

本稿は、平野美術館所蔵の「楽翁画帖」の概要について紹介することを目的としたものであるが、この作品の全容の紹介ということに関してはあくまでも序論に過ぎない。個々の収録作品の特質、無名の収録画人の伝歴、より綿密な制作の経緯、意図の検証など今後残された課題も多い。

ただ江戸時代後期の寄合書画帖の中で、松平定信という当時の政治権力者であり、かつ代表的文化人が企図したと考えられるこの作品は、当時の画壇状況を検証するに止まらず、当時の政治権力者と文化人の交流、政治と文化のあり方など様々な事象について考察する上で、今後重要な資料となるものであると思われる。

## 注

1 近年、展覧会図録、論文等で「楽翁画帖」所収の作品が紹介された例は以下の通りである。

名古屋城特別展開催委員会編『尾張のやまと絵田中訥言』名古屋城特別展開催委員会 平成一八年

『光琳を慕う―中村芳中』芸艸堂 平成二六年

日並彩乃「近世の土佐派と復古大和絵―『復古大和絵』の定義の問題」

『東アジア文化交渉研究』七号 関西大学大学院東アジア文化研究科

平成二六年

2 本作品を所蔵する平野美術館では、旧装丁での保存では、画面の折れなどによる損傷発生の可能性が大きいこと、また展示の便を考慮して、美術館収蔵後、現状の保存方法に改めたということである。

3 このほか「関山」の落款がある作品、「芳洲」の落款がある作品がそれぞれ二図存在する。前者は二図とも福島関山の筆である可能性があるが、後者は一図が山田芳洲の作と見なされるものの、もう一図は別の画家の作品と思われる。

4 平野美術館によると、「楽翁画帖」の名称は、本作品が同美術館に収蔵され、展示等に活用されるようになった際、付されたものであることである。松平定信が「楽翁」の号を称したのは、藩主の座を松平定永に譲って隠居した文化九年以降であり、本作品が制作された時期より後となるが、定信の良く知られた「楽翁」の号を冠したという。

5 水田紀久・野口隆・有坂道子編著『木村兼葭堂全集 別巻 完本兼葭堂日記』藝華書院 平成二二年

6 川延安直「御絵師巨野泉祐 勤功書について」『福島県立博物館研究紀要』一〇号 平成八年

佐川庄司「画僧白雲伝記点描―展示概説にかえて―」『定信と画僧白雲―集古十種の旅と風景―』白河市歴史民俗資料館 平成一〇年

7 書家として書道史に詳しかった森川竹窓は、『集古十種』編纂の協力者の一人であり、兼葭堂邸という場がなくとも、白雲、文泉が画作の依頼を行うことは可能であったと思われる。しかし、同時期に複数の在坂の画人が画作を行っているのは、江戸への帰府を間近に控えた白雲、文泉、または定信の画帖のための作品蒐集を承知していた兼葭堂らが、これらの画人に対する制作の依頼を仲介したためではなかろうか。

8 『兼葭堂日記』同年一〇月一日、兼葭堂は京の画人福島関山が宿泊する大坂の旅館を訪ねた旨が記されているが、「楽翁画帖」所収の福島関山「山水図」(図13)には「寫於浪華客舎」と、関山が大坂の宿泊先で制作したものであることが記されている。白雲、文泉が兼葭堂とともに関山の大坂の宿泊先を訪れたとはいえないが、兼葭堂から関山の大坂滞在の情報を得た白雲、文泉が、関山の宿泊先を訪れ、制作を依頼した可能性があるのではなかろうか。

9 平田釧「牡丹図」には「綢印」・「平田氏女」の印記がある白文方連印

が捺されており、鉏は玉蒔の姉妹であると推定できる。玉蒔の妹平田玉葆も女流画人として知られているが、玉葆の名は「庸」であることから、別人の可能性もある。別人であるとすれば、玉蒔・玉葆姉妹の姉である可能性が想起される（久下実氏のご教示による）。

10 『古画類聚』は松平定信が『集古十種』編纂などのために蒐集させた古文化財の画像情報から肖像、人形服章、文様、宮室、器材、兵器などの部門ごとに関係する画像の抜き写しを行い、これら各部門の有職故実等に関する画像情報を検索可能にしたものである。定信の古文化財に関する画像情報蒐集は、単に蒐集を目的としたものではなく、その情報を歴史、有職故実等の研究資料として活用していくためのデータベース化という明確な目標意識があったと思われる。

11 上野憲示「伝谷文晁筆『近世名家肖像図巻』について」『栃木県立美術館紀要』七号 昭和五五年

なお上野氏は、「近世名家肖像」のうち寛政一二年の年記を有する大典顕常、上田蘭畹、田中訥言、福島関山、西村南溪、岸駒ら京の文人について、同年『集古十種』の画像情報蒐集に関西方面を旅した文晁によってその肖像画稿が制作された可能性を指摘されている。ただ、やはり同年の年記がある備後の文人古川古松軒の肖像は、本文中で述べたとおり「楽翁画帖」には同年の古松軒の作品が所収されており、白雲、文晁がその制作依頼を行ったものであるとすると、その面談の際、白雲、文晁のいずれかが古松軒の肖像画稿を制作した可能性が高い。また年記はないが、岡山の好事家河本又七郎についても、同年白雲、文晁は同家所蔵の「藤原定家像」を模写しており、その際に同人の肖像画稿が制作された可能性が指摘できる。白雲、文晁の肖像画稿が「近世名家肖像」のこれらの人物の肖像に活用されたとすれば、「楽翁画帖」にその作品が含まれる田中訥言、福島関山らも、同年白雲、文晁と面

会し、その際に肖像画稿が制作された可能性が考慮される。

文晁のみならず白雲、文晁らの画人の協力があって「近世名家肖像」が制作されたとすれば、この作品も、定信配下の画人たちによる組織的な同時代文人の人物データベース化の成果という性格を明確に示すものであるといえよう。

12 定信は臣下の画人などに古文化財の模写や情報蒐集などを行わせる際、人の上に立つ者の慎みとして、所蔵者が定信と近い関係にない場合には、臣下の者が私的に行うのは許すが、定信の命でこれを強いるのは許さないという態度で臨んでいたと伝えられている（小林めぐみ『集古十種』の編纂―その目的と情報収集』あるく・うつす・あつめる 松平定信の古文化財調査集古十種 福島県立博物館 平成一二年）。

ただ、定信が強制的な模写や情報蒐集を行わなかったのは、権力者としての慎みという理由もあるが、幕領や他藩領などでの積極的な情報蒐集活動が、藩外の者から定信の政治的野心の表れと受け止められることへの恐れもあったのではなかろうか。臣下の画人らは、多くの場合、必要な模写や情報蒐集を行い、その成果を定信に報告したという。13 「楽翁画帖」には、白雲「山水図」（図14）、大野文晁「牡丹図」（図15）が収録されており、上方、山陽などでの「楽翁画帖」所収作品の蒐集の役割を担ったと推定した二人のほか、星野文良など定信配下の画人の作品は他にも存在する。

## 「楽翁画帖」の内容

## 巻 1

| 番号 | 名称     | 作者     | 注記           | 年記等                 | 続 |
|----|--------|--------|--------------|---------------------|---|
| 1  | 竹石図    | 狩野養川院  | 狩野養川院法印惟信    |                     | A |
| 2  | 盆蘭図    | 狩野伊川院  | 養川院長男        |                     | A |
| 3  | 山水図    | 田中朗卿   | 東都画家田中章助     |                     | A |
| 4  | 和歌浦図   | 狩野洞白愛信 | 狩野洞白愛信       |                     | A |
| 5  | 蘭図     | 古藤養山   | 同住薩州家臣古藤養山   |                     | A |
| 6  | 狸図     | 成田源十郎  | 同住卜者成田源十郎    |                     | A |
| 7  | 萩図     | 笹山養意   | 同毛利家臣笹山養意    |                     | A |
| 8  | 山水図    | 加藤杏邨   | 薩州家臣加藤賢蔵     |                     | A |
| 9  | 秋草雀図   | 金子金陵   | 東都住金子平太左衛門   |                     | A |
| 10 | 三賢人図   | 山下敬信   | 同 山下弓之助      |                     | A |
| 11 | 紅梅図    | 狩野祐清邦信 | 狩野祐清         | 14 歳=1800 (1787 生)  | A |
| 12 | 山水図    | 岡岷山    | 安藝家臣岡利源太     |                     | A |
| 13 | 海棠に雀図  | 大西圭斎   | 東都住画家        | 享和元年 (1800) 春       | A |
| 14 | 撫子に蝶図  | 狩野洞琳由信 | 狩野洞琳         |                     | A |
| 15 | 墨梅図    | 川口正一   | 東都住川口作之助     |                     | A |
| 16 | 山水図    | 小倉武駿   | 安藝家臣岡利源蔵     |                     | A |
| 17 | 月に芦図   | 董九如    | 東都住井戸甚助      | 寛政 12 年 (1800) 春    | A |
| 18 | 紅梅図    | 喜多武清   | 同画家喜多榮之助     |                     | A |
| 19 | 蘭菊竹図   | 芳洲     | 同安藝家臣        |                     | A |
| 20 | 梅に鶯図   | 酒井抱一   | 同            |                     | A |
| 21 | 双龍図    | 牧野忠精   | 牧野備前守忠精朝臣    | 寛政 12 年 (1800) 冬    | A |
| 22 | 芙蓉に蝶図  | 板谷桂意広長 | 板谷桂意         |                     | A |
| 23 | 墨竹図    | 杉浦玄徳   | 官医杉浦玄徳       |                     | A |
| 24 | 果実図    | 狩野探信守道 | 狩野探信守道       |                     | A |
| 25 | 墨梅図    | 竹澤養溪   | 家臣竹澤養溪       |                     | A |
| 26 | 積藁に雀図  | 平松榮努   | 尾州御家臣平松榮努    |                     | A |
| 27 | 日出山水図  | 柿原惟景   | 水戸御家臣柿原虎五郎   |                     | A |
| 28 | 石榴に小禽図 | 董烈     | 同住 井戸甚助子     |                     | A |
| 29 | 葡萄図    | 北山寒巖   | 同 北山懸之丞      |                     | A |
| 30 | 山水図    | 中村芳中   | 中芳中          |                     | A |
| 31 | 水馬図    | 酒井忠貫   | 酒井修理大夫忠貫朝臣   |                     | A |
| 32 | 菊図     | 栗田口直隆  | 栗田口直隆        |                     | A |
| 33 | 波濤に燕図  | 陶山惟純   | 東都住雲州家臣陶山重三郎 |                     | A |
| 34 | 猿図     | 鶴沼新八   | 同 鶴沼新八       | 寛政 12 年 (1800) 11 月 | A |
| 35 | 藻魚図    | 平田惟光   | 同 平田金女       |                     | A |
| 36 | 甘草に小禽図 | 住吉広行   | 住吉内記廣行       |                     | A |
| 37 | 滝山水図   | 藤田錦江か  | 東都住          |                     | A |
| 38 | 貝尽し図   | 狩野友川寛信 | 狩野友川寛信       |                     | A |
| 39 | 奇石図    | 鏑木雲潭   | 東都住          | 寛政 13 年 (1801) 正月   | A |
| 40 | 花籠に牡丹図 | 間宮土信か  | 御旗本衆間宮縫殿助    |                     | A |
| 41 | 高士観梅図  | 渡辺玄対   | 東都住          |                     | A |
| 42 | 墨菊図    | 金龍山人   | 福寫家臣長谷川三右衛門  | 寛政 12 年 (1800) 12 月 | A |

|    |         |           |           |  |   |
|----|---------|-----------|-----------|--|---|
| 43 | 海棠に叭々鳥図 | 宋紫山       | 東都画家楠本雪湖  |  | A |
| 44 | 山水図     | 渡辺赤水      | 同         |  | A |
| 45 | 芙蓉図     | 内田陶丘      | 同         |  | A |
| 46 | 柘榴に文鳥図  | 宋万里（宋紫岡か） | 同 楠本雪溪    |  | A |
| 47 | 若松図     | 竹沢養溪惟房    | 養溪        |  | A |
| 48 | 放馬図     | 神谷養秋      | 尾州御家臣神谷養秋 |  | A |
| 49 | 布袋図     | 今村養寿      | 同 今村養壽    |  | A |

## 巻 2

| 番号 | 名称    | 作者    | 注記          | 年記等              | 統 |
|----|-------|-------|-------------|------------------|---|
| 1  | 寿老人図  | 土佐光貞  | 土佐土佐守       |                  | A |
| 2  | 山水図   | 長町竹石  | 讃岐高松商家徳兵衛   | 寛政 12 年（1800）5 月 | B |
| 3  | 波涛図   | 守成    | 京師住画家       |                  | B |
| 4  | 飛燕図   | 藤原宗舗  | （なし）        |                  | B |
| 5  | 酒宴図   | 世継希僊  | 京師商家岐阜屋八郎兵衛 |                  | B |
| 6  | 山水図   | 老峯    | 同 隠士老峯      |                  | B |
| 7  | 月に杜鵑図 | 寺尾霞亭か | 同 寺尾愛三郎     |                  | B |
| 8  | 山水図   | 吉村蘭洲  | 同 画家蘭洲      |                  | B |
| 9  | 牛蒡図   | 合川岷和  | 同 合川爲四郎     |                  | B |
| 10 | 山水図   | 中村梅華  | 同 中村安右衛門    |                  | B |
| 11 | 牡丹図   | 奥文鳴   | 同 奥順藏       |                  | B |
| 12 | 月に白梅図 | 希沼    | 同住          | 寛政 12 年（1800）6 月 | B |
| 13 | 雀図    | 向井源章  | 同 向井富吉      |                  | B |
| 14 | 雨中舟図  | 山口素絢  | 同 山口嘉吉      |                  | B |
| 15 | 蝙蝠図   | 吉村孝敬  | 同住          |                  | B |
| 16 | 楼閣山水図 | 狩野永俊  | 同住          |                  | B |
| 17 | 山水図   | 月亭    | 同 大泉寺       |                  | B |
| 18 | 莊子図   | 東東洋   | 同 画家        |                  | B |
| 19 | 紫陽花図  | 佐久間草僊 | 同 画家        |                  | B |
| 20 | 山家図   | 森輝樹   | 同 森与藏 角倉下吏  |                  | B |
| 21 | 布袋図   | 狩野士信  | 同           |                  | B |
| 22 | 山水図   | 山田芳洲  | 安藝 田村傳甫     |                  | B |
| 23 | 梨図    | 阿部玉陽  | 京師 阿部玉陽     |                  | B |
| 24 | 郭公図   | 南畝    | 同           |                  | B |
| 25 | 楼閣山水図 | 敬亭    | 廣嶋家臣久野駒次郎   |                  | B |
| 26 | 雀図    | 峴山    | 同辻村彦兵衛      |                  | B |
| 27 | 墨竹図   | 村上東洲  | 京 村上東洲      |                  | B |
| 28 | 山水図   | 八木杏邨  | 廣嶋家臣八木健藏    |                  | B |
| 29 | 菊図    | 森川芝園  | 大阪隠士森川曹吾妻   |                  | B |
| 30 | 唐人物図  | 香川氷仙  | 同妹          |                  | B |
| 31 | 鼠図    | 白井直賢  | 草津住         |                  | B |
| 32 | 陶淵明図  | 宗理    | 京 福智匡       |                  | B |
| 33 | 石榴図   | 索阮    | 京 画家        |                  | B |
| 34 | 人物図   | 田中訥言  | 同 田中訥言      |                  | B |
| 35 | 紅梅図   | 戸田貞三郎 | 同 戸田貞三郎     |                  | B |
| 36 | 酒宴図   | 村上直察  | 京 画家        |                  | B |

## 巻 3

| 番号 | 名称     | 作者    | 注記          | 年記等                 | 続 |
|----|--------|-------|-------------|---------------------|---|
| 1  | 琴士図    | 長山孔寅  | 京師長山源七郎     |                     | B |
| 2  | 林に鳥図   | 原在正   | 同 原在正       |                     | B |
| 3  | 山水図    | 西竹坡   | 讃岐画家寺寫六蔵    |                     | B |
| 4  | 奇石図    | 原在中   | 京師 原在中      |                     | B |
| 5  | 河辺邸宅図  | (不明)  | 同 姓名未詳      |                     | B |
| 6  | 猫図     | 原在明   | 同 原在明       |                     | B |
| 7  | 枇杷図    | 松村景文  | 同 松村直次      |                     | B |
| 8  | 岩に草図   | 長山孔寅  | 同 長山源七郎     |                     | B |
| 9  | 山水図    | 岡本豊彦  | 同 岡本剛平      |                     | B |
| 10 | 白鹿図    | 俊童    | 同           |                     | B |
| 11 | 蓮図     | 呉春    | 同 月溪        |                     | B |
| 12 | 白梅に小禽図 | 淵上旭江  | 大阪 淵上旭江     | 寛政 12 年 (1800) 小春   | B |
| 13 | 秋山落暉図  | 岡田半江  | 同 岡田小米      |                     | B |
| 14 | 蘭に靈芝図  | 森春溪   | 同 森春溪       | 寛政 12 年 (1800) 10 月 | B |
| 15 | 瀑布図    | 岡田米山人 | 同 岡田彦兵衛     | 寛政 12 年 (1800) 小春   | B |
| 16 | 墨竹図    | 森川竹窓  | 同 森川曹吾      | 寛政 12 年 (1800) 小春   | B |
| 17 | 山水図    | 野呂介石  | 紀州御家臣野呂九一郎  |                     | B |
| 18 | 山水図    | 鉏雲泉   | 京師 馴文平      | 寛政 12 年 (1800) 7 月  | B |
| 19 | 牧童図    | 黒田綾山  | 備中画家玉寫良助    |                     | B |
| 20 | 岩図     | 木村石居  | 大阪木村六兵衛     | 寛政 12 年 (1800) 10 月 | B |
| 21 | 山水図    | 野口蘭陵か | 讃岐画家野口九兵衛   |                     | B |
| 22 | 山水図    | 岡熊岳   | 大阪 岡熊岳      |                     | B |
| 23 | 蘭に靈芝   | 木村兼葭堂 | 同 木村太吉郎     | 寛政 12 年 (1800) 冬    | B |
| 24 | 秋山簫散図  | 鼎春嶽   | 同 鼎太郎右衛門    |                     | B |
| 25 | 牡丹図    | 之又庵   | 京師画家        |                     | B |
| 26 | 山水図    | 賀茂専頭  | (なし)        |                     | B |
| 27 | 牧童図    | 世古雀阜  | 聖護院宮御家臣世古帯刀 |                     | B |
| 28 | 月に叭々鳥図 | 賀茂専頭  | (なし)        |                     | B |
| 29 | 山水図    | 福島関山  | 京師福寫庄七      |                     | B |
| 30 | 楼閣山水図  | 町尻量聡  | (なし)        |                     | B |
| 31 | 双雁図    | 勝山琢眼  | 京師          |                     | B |
| 32 | 山水図    | 三雲仙嘯か | 同 田山六蔵      | 寛政 12 年 (1800) 5 月  | B |
| 33 | 瀑布図    | 福島関山か | 同           |                     | B |

## 巻 4

| 番号 | 名称     | 作者         | 注記          | 年記等                | 続 |
|----|--------|------------|-------------|--------------------|---|
| 1  | 露草に仔犬図 | 白石爛兮       | 仙臺家臣白石良治    | 寛政 12 年 (1800) 8 月 | A |
| 2  | 墨梅図    | 小川只七       | 同 小川只七      | 77 歳               | A |
| 3  | 山水図    | 野口成意       | 同 野口九郎右衛門   |                    | A |
| 4  | 寿老人図   | 武田竹亭       | 同 武田源五郎     |                    | A |
| 5  | 蓮に鶴鴿図  | 五十嵐主善      | 越后新潟法眼五十嵐主善 | 寛政 12 年 (1800) 冬   | A |
| 6  | 水亭図    | 五十嵐主善      | 同           |                    | A |
| 7  | 栗図     | 木村衛守 南山古梁賛 | 仙臺家臣木村衛守    |                    | A |

|    |        |               |              |                      |   |
|----|--------|---------------|--------------|----------------------|---|
| 8  | 高士図    | 門名楽山          | 會津家臣門名傳之助    |                      | A |
| 9  | 菊石図    | 立川直史          | 同 立川孝次郎      |                      | A |
| 10 | 鯉魚図    | 池雪英           | 越后村上領燕町隠士池周藏 |                      | A |
| 11 | 桃花山水図  | 蒼龍山人<br>南山古梁賛 | 仙臺家臣吉成愛治     | 寛政 12 年 (1800) 8 月   | A |
| 12 | 桃花に小禽図 | 僊花堂秀英         | 長岡家臣櫻右膳      |                      | A |
| 13 | 楼閣山水図  | 田村観瀾          | 會津家臣田村半兵衛    |                      | A |
| 14 | 墨竹図    | 日向忠           | 同 日向衛士       |                      | A |
| 15 | 牛曳図    | 源忠郷           | 仙臺家臣松板亘      | 寛政 12 年 (1800) 9 月   | A |
| 16 | 醉李白図   | 三輪文祥          | 越后与板町处士三輪喜兵衛 |                      | A |
| 17 | 牡丹図    | 大野文泉          | 家臣大野文泉       |                      | A |
| 18 | 林和靖図   | 松浦宗慎          | 越后新潟处士松浦宗慎   |                      | A |
| 19 | 山水図    | 白雲            | 白河僧白雲        |                      | A |
| 20 | 山水図    | 石川侃斎          | 越后長岡新潟处士石川   |                      | A |
| 21 | 酒宴図    | 五十嵐其正         | 家臣久松半        | 寛政 12 年 (1800) 11 月  | A |
| 22 | カタクリ図  | 久松南湖          | 越后新潟处士佐野庄太   |                      | A |
| 23 | 秋海棠図   | 星野文良          | 家臣星野曹吾       |                      | A |
| 24 | 水芭蕉図   | 蠣崎波響          | 松前家臣蠣崎将監     | 寛政 12 年 (1800) 閏 4 月 | B |
| 25 | 仙人渡河図  | 山田文川          | 越后領中画者山田文川   |                      | B |
| 26 | 乗舟観月図  | 月山 (左近司惟春か)   | 米澤家臣左近司周助    |                      | B |

## 卷 5

| 番号 | 名称       | 作者    | 注記         | 年記等 | 続 |
|----|----------|-------|------------|-----|---|
| 1  | 月に郭公図    | 宗岡寿行  | 京師         |     | B |
| 2  | おたまじゃくし図 | 堀索道   | 同          |     | B |
| 3  | 蜻蛉図      | 元章    | 同 板枝金吾     |     | B |
| 4  | 仙人図      | 成瀬正胤  | 同 成瀬嘉兵衛    |     | B |
| 5  | 鱒図       | 西六之進  | 丸龜家臣西六之進   |     | B |
| 6  | 墨梅図      | 賀茂氏章  | 京師         |     | B |
| 7  | 墨竹図      | 八田古秀か | 同 八田六兵衛    |     | B |
| 8  | 鮎図       | 玩春    | 同 川東       |     | B |
| 9  | 梅枝に鉄図    | 富田延秋  | 同 富田薩子     |     | B |
| 10 | 唐獅子図     | 安親    | 同          |     | B |
| 11 | 芙蓉図      | 山田索隠  | 同          |     | B |
| 12 | 墨蘭図      | 桃仙    | 同          |     | B |
| 13 | 墨蘭図      | 桐友壽か  | 同          |     | B |
| 14 | 梅に雀図     | 定教    | 同          |     | B |
| 15 | 山水図      | 市川君圭  | 同 市川君來     |     | B |
| 16 | 亀図       | 敦光    | 同          |     | B |
| 17 | 寿老人図     | 賀茂匡保  | 同          |     | B |
| 18 | 鶴図       | 藤波寛忠  | 難江二位寛忠卿    |     | B |
| 19 | 茄子隠元豆図   | 知定    | 伏原家臣 主水    |     | B |
| 20 | 龍田川図     | 伏原宣光  | 伏原侍従宣光卿    |     | B |
| 21 | 雲龍図      | 鶴沢探泉  | 同 鶴沢探泉     |     | B |
| 22 | 唐獅子図     | 武田索駿  | 同          |     | B |
| 23 | 稚松図      | 石井行宣  | 石井左京大夫行宣朝臣 |     | B |

|    |       |       |            |                    |   |
|----|-------|-------|------------|--------------------|---|
| 24 | 文使い図  | 正邦    | 同          |                    | B |
| 25 | 漁夫図   | 山田荊山  | 同 山田良平     |                    | B |
| 26 | 山水図   | 三寿    | 商家大助       |                    | B |
| 27 | 鳴門図   | 古川古松軒 | 備中隠士古川平次兵衛 | 75 歳＝1800 (1726 生) | B |
| 28 | 草虫図   | 平田玉蘊  | 備中商家新太郎女   |                    | B |
| 29 | 牡丹図   | 平田釧   | 同 同女       |                    | B |
| 30 | 蝶唐子図  | 亀山元助  | 商家元助       |                    | B |
| 31 | 山水図   | 山田芳洲  | 京 法橋芳洲     |                    | B |
| 32 | 飲酒読書図 | 山洋    | 同 商家幸藏     |                    | B |
| 33 | 夏草図   | 亀山万   | 同 商家元助女    | 11 歳               | B |

## 巻 6

| 番号 | 名称    | 作者         | 注記          | 年記等 | 続 |
|----|-------|------------|-------------|-----|---|
| 1  | 湖畔水亭図 | 大久保忠真      | 大久保安藝守忠真朝臣  |     | A |
| 2  | 黍図    | 那須芝山       | 那須與市        |     | A |
| 3  | 山水図   | 池田政養       | 池田内匠頭       |     | A |
| 4  | 瀑布驚図  | 森徹山        | 大坂 森文藏      |     | B |
| 5  | 瀑布図   | 木下応受       | 京師 圓片直市     |     | B |
| 6  | 群雀図   | 長澤蘆洲       | 同 長澤蘆洲      |     | B |
| 7  | 稚松図   | 円山応瑞       | 同 圓山主水      |     | B |
| 8  | 百合図   | 水野忠詔       | 水野壹岐守源忠詔朝臣  |     | A |
| 9  | 枇杷に雀図 | 弦川         | 佐倉藩 河合喜内    |     | A |
| 10 | 花鳥図   | 大久保忠成      | (なし)        |     | A |
| 11 | 山水図   | 谷舜英        | 田藩 谷氏女舜英    |     | A |
| 12 | 墨梅図   | 鈴木 (井川) 鳴門 | 阿州人井上源兵衛    |     | A |
| 13 | 墨蘭図   | 元蘭         | (なし)        |     | A |
| 14 | 墨竹図   | 柴田景浩       | 尾藩 柴田新溪     |     | A |
| 15 | 黄初平図  | 土岐済美       | (なし)        |     | B |
| 16 | 鵜飼図   | 礪溪         | 那須家臣小河原半左衛門 |     | A |
| 17 | 葛に雀図  | 酒井忠道か      | (なし)        |     | A |

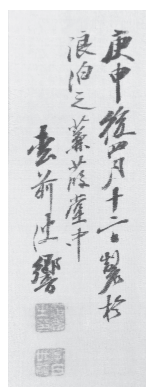


図2 蠣崎波響 水芭蕉図 落款

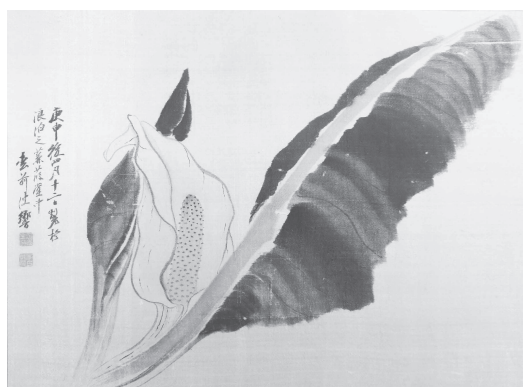


図1 蠣崎波響 水芭蕉図（楽翁画帖）  
平野美術館



図4 淵上旭江 白梅に小禽図（楽翁画帖）  
平野美術館



図3 森川竹窓 墨竹図（楽翁画帖）  
平野美術館



図6 森春溪 蘭に灵芝図（楽翁画帖）  
平野美術館

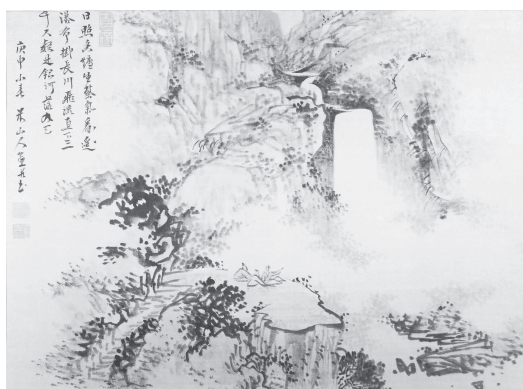


図5 岡田米山人 瀑布図（楽翁画帖）  
平野美術館

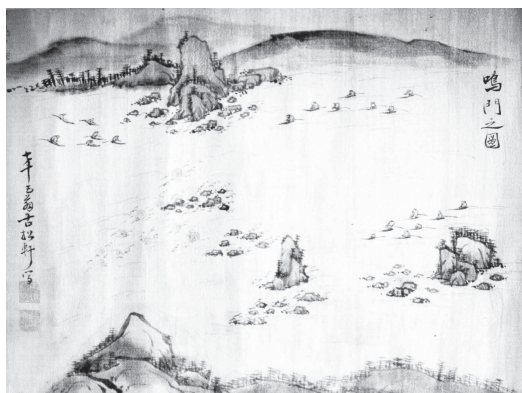


図8 古川古松軒 鳴門図（楽翁画帖）  
平野美術館



図7 木村兼葭堂 蘭に雲芝図（楽翁画帖）  
平野美術館



図10 亀山万 夏草図（楽翁画帖）  
平野美術館

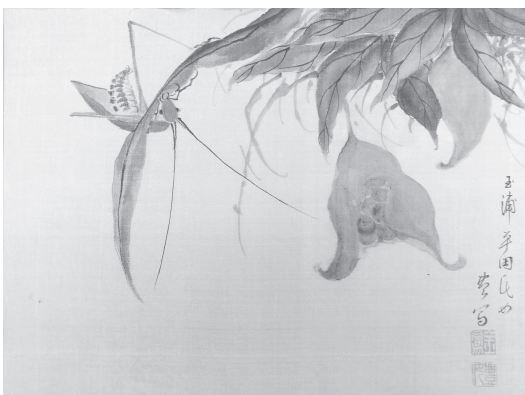


図9 平田玉蒔 草虫図（楽翁画帖）  
平野美術館



図12 大西圭斎 海棠に雀図（楽翁画帖）  
平野美術館



図11 長町竹石 山水図（楽翁画帖）  
平野美術館



图 14 白雲 山水図（楽翁画帖）  
平野美術館



图 13 福島関山 山水図（楽翁画帖）  
平野美術館



图 15 大野文泉 牡丹図（楽翁画帖）  
平野美術館